

## 審査メモについての回答

平成25年6月27日  
総務省政策統括官付  
経済統計担当統計審査官室

## 3 加工統計の推計精度への影響

本調査の変更が加工統計に及ぼす影響を精査し、その妥当性及び影響について検討する必要がある。

(その他)

- a 加工統計に影響を及ぼすおそれがある場合、どのように防ぐことが可能か。組織体制の弱体化への対応が必要ではないか。

<回答>

本調査に限れば、IIP や IO を作成するための原データとなっているところ、既に平成11年時点と比べ、調査票数で21、品目数で750程度減って、調査票数111、品目数で1,700となっている。今後ともこれまでと同様に品目削減が続けば、利用者である加工統計側の推計精度に影響が出るおそれもある。これが、調査対象範囲の見直しの理由である「調査環境の悪化」によるとすれば、それは調査実施者側の組織体制を向上させていく必要がある。

したがって、加工統計への影響の大きい一次統計調査実施者において、質及び量の両面における人材確保、予算確保等のための自助努力を最大限行っていくことが必要と考える。

(その他)

- b 鉱工業指数や産業連関表等の関連指数間における調整は行われているのか。

<回答>

加工統計(指数)としては、SNA や IO に加え、製造業は今般の IIP、サービス業は第3次産業活動指数、GSPI、CGPI 等いろいろな指数があり、政府として、これらの指数間の連携も視野に、その整備を進めることは極めて重要である。

しかしながら、SNA や IO、IIP、CPI など重要な加工統計(指数)については既に基幹統計となっているものの、現在、こうした加工統計(指数)に関して共通のかつ専門的に検討する場はない。

その結果、例えば一次統計調査の変更によって、加工統計(指数)の精度に影響が生じる可能性がある場合、精度を確保するために、加工統計側としてどのように対応することが必要か、あるいは一次統計側に対し、何を求めていく必要があるか等の対応方法について検討する機会も場もない状況であり、何らかの手当が必要と考える。

【参考】統計委員会所属部会一覧(平成25年6月現在)

統計委員会基本計画部会、国民経済計算部会、人口・社会統計部会、産業統計部会、サービス統計・企業統計部会、統計基準部会、匿名データ部会